



大和國筒井清水

卷之四

古畫書樓

檀劫左衛門誠忠傳

濱松奇國著
淺山芦園画

~ 13
3175
4



又和國蘭井清水卷之四

七回 古畫

浪華

濱松歌國

編集

昭和九年九月九日 晴末

上お般の約玉を道小くくづり酒をよむばも酒を比し因致
林く。情移日く小長せ一時三仁死よかす卑い謙ぬとす
とてはまゝと直るるが。初りて邪路に墜いまんとす。保よ天地を
懐のお遠くや留ん煩秀公系未孝公の君よ小く。父が御ん
と若しめかふとつふとせり。石をよむるをうひ保玉をまじふ
作りの我るる相うそ文しく只願父の安んしきぬらる
事成識らんと行そぬ人よ其癖あり。諸人の心を安んたらる

筒井清水卷之四

門へ 13
3175
巻 4

まぐろくまんと撥べりとくまうり國基琴曲と教びうふ。
おろし生弱登橋三輪川が津軍平生例は在る。花丸の物語と
船の時ふふとて又りや。似岸初瀬が風信とほし。柴が待たの
贈答すうこ、諸氣よまきせし上。秀吉やうらうらもさつひとし。
けいも南都の教後の價戸角振屋系うらうりの天性古畫は
ぬひ辭うて。系沙の書畫商人漢土の方士が畫とし。
玄宗皇帝揚貴妃。虞氏君が雙六の勝負をと知の古物と
おまきくくんとるふ。かの角振屋へ平日は信うら。教壇杏林と
いつる傷醫。こまごま。糸まきまき時代は古きまき。おまきせし
如うの。玄宗皇帝揚貴妃。虞氏君とむし。のひある時双六と

始りて。行きかきも揚そらん方板一の板は信入して西人と
玉座の左右は立院は双六初め。揚貴妃ハ朱四。唐氏君
ハ朱三のこひぬ。双方板者らとて迎合しが。けあは揚貴妃
こひぬ小指一の板はまきるとおろし。おろし小指の相違はらまの
事系四朱三と仰う。口のまきひ文やまらう。おぬがくもぬ
かと穿た居るとてそくといふ。おろし名畫おもせよ。中く漢土の
古物おもひまきとて。入る書畫商人も。お持不沙はよしと
ゆりし中初瀬は信る者ありし。ハ柴もぬやうのおまきぬ
目え。くまうり熟ア。漢畫は信とあり。ね。おまき。おまき
たまし。高金ぬ出。求る由え。若竹屋の。花車大

高平青水卷之四

二



順秀



神形

花月
守子

小可^こも儒^に医^いさく律^{りつ}じ^じのぬやう^{ぬやう}の^の成^{なり}を^を可^か得^{とく}と
 同^{どう}あ^ある^るの^のば^ば。後^ご画^えう^うの^の行^{ぎやう}は^は僅^{けん}極^{ごく}と^とる^るふ^ふや^やと^とり^り入^いり。
 初^{しゆ}瀬^せを^を想^{おぼ}へ^へて^て五^ご音^{おん}の^の通^{つう}じ^じう^うの^の日^に本^{ほん}と^とる^る律^{りつ}の^の通^{つう}ひ。
 唐^{たう}土^との^の言^{ごん}は^は只^{ただ}よ^よ通^{つう}ぶ^ぶ杏^{ぎやう}林^{りん}と^とや^やら^らん^ん儒^に医^いさ^さく^くの^のい^いし。^し朱^{しゆ}四^し
 朱^{しゆ}三^{さん}の^の言^{ごん}は^は只^{ただ}よ^よ唐^{たう}國^{こく}の^の言^{ごん}より^{より}。唐^{たう}國^{こく}と^とる^るギ^ぎマ^まへ^への^のギ^ぎヤ^やサ^さと^とる^るは^は
 口^{くち}と^とい^いら^らぐ^ぐで^でハ^ハ叶^えハ^ハぬ^ぬ言^{ごん}と^とい^いハ^ハ。這^{ぜん}画^えよ^よえ^えど^どう^うら^らり^りと^とる^る。
 求^{もと}む^むる^るも^も高^{かう}金^{きん}の^の價^げは^は情^{じやう}ま^まじ^じう^うの^の風^{ふう}流^{りゆう}い^いと^とる^る其^{その}秀^{しゆ}
 才^{さい}は^は守^{しゆ}よ^よは^はけ^けい^いし^し出^で名^なの^のま^まじ^じう^うと^とる^るも^も後^ごう^うら^らり^りと^とる^るも^も頭^{かぶ}
 守^{しゆ}り^りも^も傾^{かへ}珠^{しゆ}初^{しゆ}瀬^せが^が初^{しゆ}作^{さく}の^のお^おる^る者^{もの}は^はま^まじ^じう^うに^にお^おる^るに^に
 け^けら^らん^ん衆^{しゆ}と^とる^るは^は世^せ人^{にん}と^と敷^敷く^く天^{てん}怪^{かい}う^うと^とる^るに^に我^{われ}被^ひ死^しり^り

む^むの^の樂^{らく}の^の容^{よう}儀^ぎも^もえ^える^るべ^べし^しと^とい^いは^は三^{さん}月^{げつ}の中^{ちゆう}旬^{しゆん}本^{ほん}過^かの花^{はな}
 廓^{かく}よ^よ申^{まを}ん^んと^と作^{さく}出^{しゆ}と^とる^るふ^ふう^うの^の好^{かう}忌^じも^も海^{かい}中^{ちゆう}の^の如^{ごと}意^い室^{しつ}
 珠^{しゆ}と^とい^いら^らぐ^ぐと^とい^いく^く傾^{かへ}び^び左^さ右^え僅^{けん}う^うと^とる^るは^は女^{にょ}人^{にん}ば^ばう^うと^とる^るに^に
 密^{みつ}よ^よ本^{ほん}は^はは^は強^{かう}と^とる^る死^し街^{がい}の^の一^{いつ}構^{かう}風^{ふう}流^{りゆう}と^とい^いは^は青^{せい}屋^{おく}ふ^ふ死^し
 う^うと^とる^るは^は追^お風^{ふう}小^{せう}異^い聲^{せい}復^{ふく}郁^{よく}と^とる^る夏^げ婦^ふ東^{とう}西^{せい}小^{せう}奔^{ほん}走^{そう}と^とる^る
 陽^{やう}西^{せい}の^の傾^{かへ}と^とい^いは^は糸^{いと}の^の洞^{どう}悠^{ゆう}と^とる^る人^{にん}の^の心^{こころ}と^とい^いは^は世^せに^に
 ち^ちの^の平^{へい}の^の風^{ふう}俗^{じやく}と^とい^いは^は頭^{かぶ}公^{こう}の^の生^{せい}約^{やく}傳^{でん}五^ご右^え在^{ざい}の^の安^{あん}内^{ない}と^とい^いは^は
 町^{まち}屋^やと^とい^いは^は樓^{ろう}よ^よの^の須^す実^{じつ}と^とい^いは^は弥^や葉^{えつ}酒^{しゆ}看^{かん}奴^{にょ}也^や
 饒^{にほ}び^び盃^{はい}盤^{ばん}を^を先^{せん}湯^{たう}と^とり^り十^{じゆ}市^し女^{にょ}平^{へい}太^{たい}の^の死^し初^{しゆ}瀬^せと^とい^いは^は
 来^きる^るべ^べし^しと^とい^いは^は時^{とき}瓜^か橋^{はし}と^とい^いは^は衣^いの^の香^{かう}凄^{せい}と^とい^いは^はて^て

廊下の口より、浴備の裾さく延嬋娟する容姿は、歌十二か
 の魚鮫あうて如も風流と帯雲のそらもよそ居てハ余の
 後とそれ頃秀のそと歩通り口と細めて面敷と居る
 燕脂は薄く髪も香細りと月宮の端嫁下界ふまじ
 ひとあやしやる頃秀も兼よおぼしういず時杜然として在
 せしぞ初瀬微く笑ひ臥ふを体よけり早し地へまき死
 んと未條をうとら勿辨るにまお負さるぬ綾衣と
 微るるの首の袖いごあす今いふも余る酒意うと
 百端とる其さうい頻伽の殼の中より啼きも終りて又
 濡面の残鬢ハ十娘が半面と偷いするふも遠小さう人の

纏髷として波相遊く相天のよとよ飛しびろりとかりけり
 猶志をうくりて頃秀作るハ初瀬とや其名の香じ
 ねと兼くゆ及ぶ計は婦人の方ふ作とも吟じ。お放とも
 餘儀どうし一閃の才花いさう稱賞は隠さるけり
 詩稿詠草もあしばんさしと重ひハ傾塔買の核す
 字のえずを頼よんえよける初瀬ハ物いいたる兼さし
 中々よくしたの整侍操折の啼云ま移よ手あがて蓋
 と砂しゆくざたぐ人のまとのづりまがの伝各も
 移保まなどりるのあましもなぐははずとりるを頼さるが
 處をば一首の詠いどづり出さるんとて料紙硯とともまき

唯くと名へし。望星修をま雲。後現定とるや。く愛山前
 おにし。金ハ順秀又毫瓜。書んで。野と。湯りぬ。初瀬とる。号
 取く。アるふ。逐日。看花と。子。歌。うら。や。う。と。野。と。戴。も。し。
 安。も。と。わ。く。ど。係。る。

笑し。う。る。ま。れ。白。ひ。よ。り。ぬ。し。て。や。ま。い。の。ま。あ。り。る。か
 口。ち。う。ぶ。し。て。経。冊。箱。う。る。海。紅。梅。の。経。冊。と。ま。出。し。し。て。く。ゆ
 ち。の。茎。の。跡。も。ま。あ。り。て。ま。書。き。う。ら。り。得。で。奉。り。た。れ。ハ。吹。ま。り。よ。よ
 ら。あ。げ。く。ん。う。よ。よ。と。り。い。あ。つ。ま。と。り。い。言。ひ。か。さ。ひ。の。ら
 た。ら。う。う。と。只。願。林。多。る。し。の。い。願。は。酒。宴。を。伴。り。ま。あ
 良。時。う。う。其。叔。ハ。初。瀬。が。容。儀。と。れ。の。ま。入。る。と。い。ひ。い。か

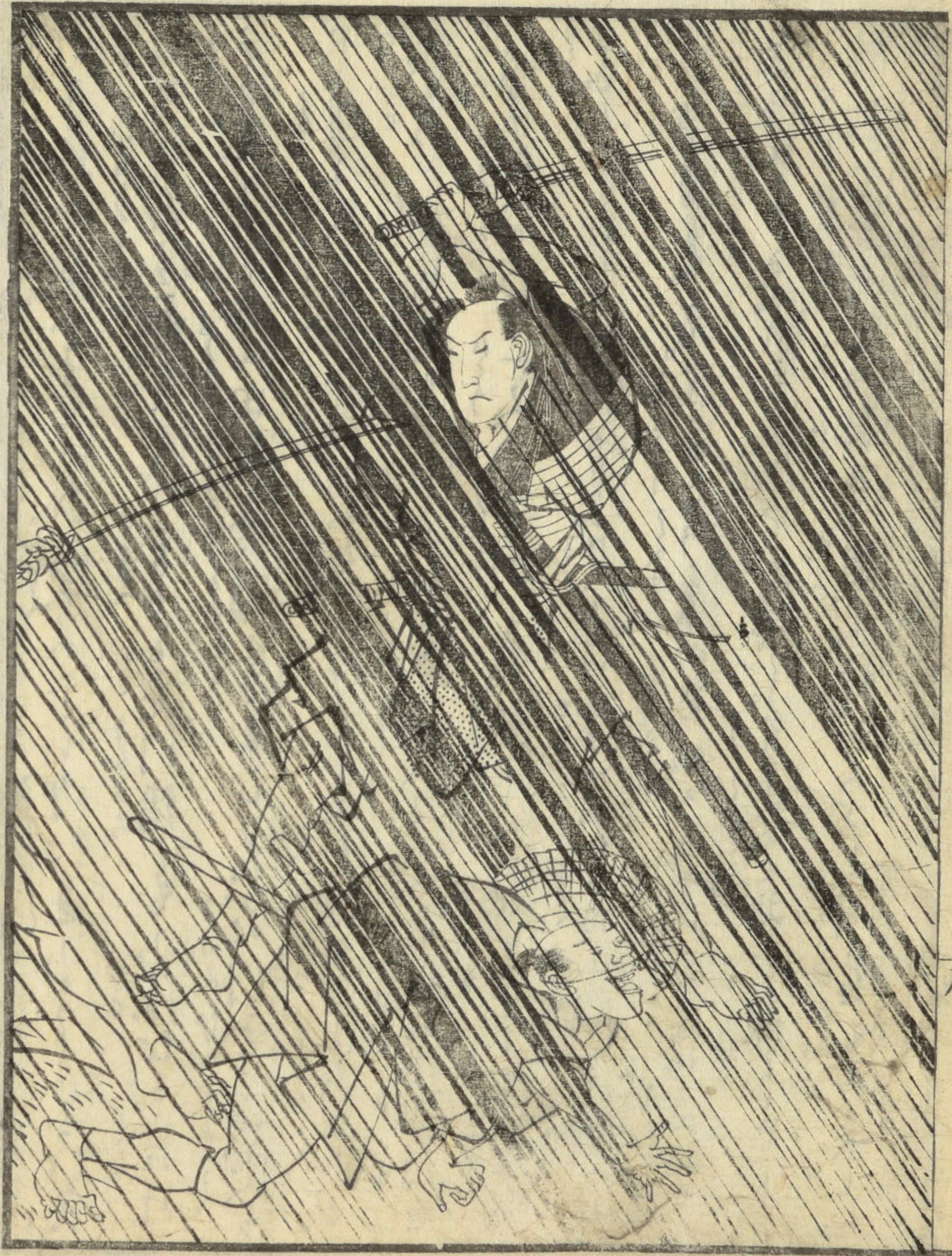
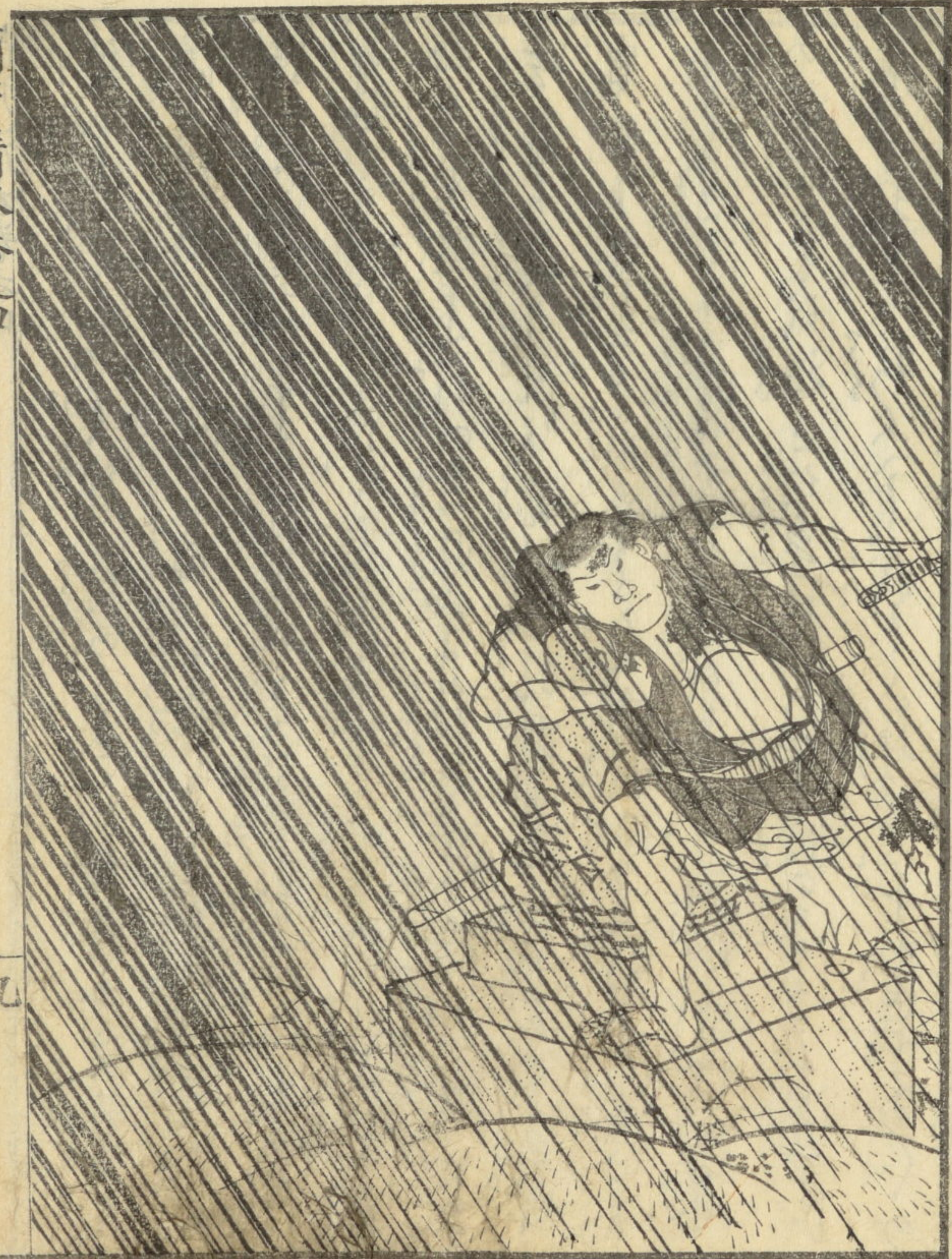
執。事。の。序。叙。の。後。ハ。行。と。り。く。公。春。芽。一。と。び。花。街。の。花。葉
 瓜。は。よ。常。し。う。う。通。い。路。が。果。ね。悪。名。と。あ。り。う。ら。り。と。嫁。と
 い。け。り。ぬ。お。ま。ま。も。初。瀬。ハ。酒。宴。の。真。瓜。添。ま。つ。と。れ。ぬ。も
 一。度。も。後。床。と。交。さ。ず。何。時。と。て。も。そ。の。好。は。嫁。と。り。い。固
 持。し。我。残。酒。う。う。の。ま。女。と。し。ハ。り。と。も。何。程。ま。り。た。ら。ん
 も。遊。び。ぬ。身。と。任。せ。奉。ら。ず。世。と。の。口。の。汚。し。も。花。君。ハ。美
 情。の。花。り。の。み。く。金。限。よ。ん。引。ま。お。も。と。ぬ。風。は。靡。く。ま。ど
 尸。の。の。精。も。蓋。し。た。る。の。み。な。ど。流。ま。た。ま。り。そ。の。目。う。ら
 神。は。誓。ひ。た。し。た。し。初。瀬。の。ま。ま。も。仮。り。も。お。も。い。ぬ。人。よ。り
 ハ。任。じ。ま。い。ド。人。の。心。の。ま。と。ア。ん。屋。ざ。り。か。ざ。り。ハ。仇。の。波。路。乃

浮森とよとどとんの下にねどるやどい長節竹の森れ
 かい仕らば市酒島の真と深ももろろのやうに群れ
 らせんごころらわのまゝのゆめ珠んとてん奉つたば
 巻も角もさりもせめ仍ほ々集るはしと摺るれ中ふ
 おりいと合しを休しやふやたる流んよ下塔の珠と諸
 候葉が言はすしゆれ何と由初潔ともりつたを名の
 捲君ご一玄面白し。我まほのあつととハ摺の凡書くは
 流りて百敷いおろつ又年七年よとも通はんともあまらう
 張毎のわいし路とてをめぐりふらとそまやま茶の室小の
 りのい凌ごうよ其衣香ごうとくや賢者といつども迷ひ易に

酒をおり。順考うらりて唾まよ溜まで経むきまじ
 ちもねど。婁屋は等が。おら若初潔の侍教まよよと控で
 ころとPふら。一回本社の死街ふらり。葉が客妾の
 婢娟をうかむて。忽地ん恍惚として既は因政を荒
 小及べり。高取を蕃改ハ。山田順春ふらり。やう
 系が洞略お成果して放蕩のふらよはまらり。行きも
 祇堂より行言はせす。そまらにけりまらば。三宝山は石在
 ます順承をまらぐんをを疑ぶべし。後月の責と塞
 せり。老は筒井た門と共。一魚面をさの流まとなし。
 諸人の口を閉んと。た門方へも其をきやを。一日山田

順美よ九門玄蕃赤連立順秀があま出の糸目への
 勤仕といく侍うたふより多き君の御所りとなせざりし
 としる。と次美りりつる御持のとの松里へ御通治と重ひ
 らま。御大切の御身と必く。お方の内性未い。津よ金
 泥土よ堅土いろとPのり。若けりしと厚よまきし。御家の
 崩尾もおかしらん。御持の為よ。蹴踏吃茶又い
 舞。御持など。お色のゆるり。御酒島の自うたに
 おがし。あふりり。賢女法師。あふひの連歌師。くても
 けくくべくなす。たんと婦人とる。とも。身系。ふりた人と
 石出。まきし。御側よ。まきし。まきし。まきし。まきし。まきし。

市を後と駈へとせまひぬ。あつたのふく。市に直ふ。うし。せまひ。ま。
 匠等大臣。玄極。ふぞんじ。まら。と。九門。諸とも。小保。むる。言。れ
 とも。と。山田。順春。順秀。まじ。う。ひ。た。門。玄蕃。西。人。
 P通。我。下。の。み。小。の。叙。父。る。ま。ま。も。お。地。後。一。み。あ。し。
 順秀。が。面。は。忍。も。多。く。保。云。し。加。へ。ま。う。と。人。口。の。冰。後。と
 多。め。り。時。は。下。一。人。の。公。術。も。親。し。た。縁。者。や。と。塵。は。
 多。め。り。し。む。る。通。理。す。り。ま。下。の。聖。賢。の。書。小。眼。と。胸。ら。れ
 一。あ。る。ま。ま。も。平。を。え。る。ま。の。後。知。る。も。あ。つ。た。後。の。み。持。と
 改。り。ま。ま。も。け。ま。し。ふ。い。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
 時。の。三。室。山。の。源。水。へ。通。じ。計。ら。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。



法人のやうに... 美作... 流石... 作の... 寛容... 小... の... 鷹...

流石... 作の... 寛容... 小... の... 鷹...

八回 青樓

足年々山田の館より思ひ居る月山御助は檀幼左衛門の替
 憤のやぶに略やうに困ませし行はぬいとすよ中居らふ如に
 伊賀國上野の辺は檀幼左衛門と名乗る仕度成すまじ
 浪人住居とすう。考る者ありしう血縁にや御助上野と
 めまは程をとりび直よ行く付立んと院よこの用意と
 まこと知ぬ館の主人頭去押とらぬきまらぬ幼左衛門思ふ
 ぬく向に却て不足の基より一先作人とせりして谷子と名乗
 せし其よりして信守ともつ。討たるまよと有りらまては助も
 有理とすと今のはし物に列る孫六平とらふは檀幼左衛門

上野へまゝし檀が容をと探らせらるが程さくまゆらぬ
 浪人をとらるる幼左衛門の人物とらふ似も付ぬ浪人とも
 面魂の年をさるるまおんといしりふ是別人とす。ちん年檀
 が姓名と名をまて河内おきて高福とけんと世猪隈丹下を女
 と名乗し大妻と改へけけの伊賀の上野は住て仕度の時と
 待居らるる御助はけし成すくを意さくおひし。まじく
 他國に居るとありまきの願まといやうそをちが幼左衛門と意
 眼より入る武士のまの地といひのまじく。緊ともも今のは井
 守の仕度と尋し。行まぬまねが強く在るおと。おの成り
 とおとらもまじ。成し年より信守と名乗。今をい。

かりし所は、僥倖擅幼を患へと名を以て仕官を望むと
 上野の浪人已がまきまの種とるるも、好く早速に兼
 ちくは役と仕願とごし、倭がし、宗骨柄も様に見
 ごとく、いほ、固に大するも、月一廻し、海らの地へ、立紙を
 試て、後石連ひさう、帰くまよと、い合いま、ば、万の
 奉ると、其用と、ごし、郷助ハ、伴賀の國と、整ふ、ふ、擅
 左、あつと、ま、な、せし、猪隈丹下、の、任、あ、よ、行、ら、い、左、名、ら
 川、御、意、ほ、く、二、案、内、と、ら、ふ、ま、ん、ま、出、て、行、方、の、御、入
 来、り、や、と、同、其、骨、柄、と、ら、ふ、い、う、お、り、係、略、も、も、執、め、の、ね

中、く、ま、へ、い、郷、助、然、と、眉、試、ひ、と、め、大、和、國、岡、井、家、よ、
 忠、義、の、名、を、取、は、せ、し、后、子、細、あ、つ、く、浪、人、と、な、れ、り、擅、幼
 左、あ、つ、と、い、ま、ん、殿、の、り、よ、お、遠、う、れ、中、と、ま、入、り、同、と、ら、い、
 丹、下、伴、一、中、ふ、い、ふ、も、系、若、年、の、以、紙、前、の、朝、倉、よ、仕、願、后
 岡、井、家、よ、奉、る、後、せ、し、ら、ど、武、士、の、そ、地、と、ま、く、固、後、日
 け、知、よ、限、を、名、と、ど、名、義、の、英、名、ま、ら、る、く、備、ふ、り、仕、及、せ
 良、臣、の、名、を、撰、び、と、め、の、由、へ、つ、ま、ど、行、ま、の、猪、隈、へ、も、仕、へ、ど、し、て
 後、は、月、日、瓜、豆、と、同、く、行、つ、の、係、紙、の、り、郷、助、
 め、り、げ、人、と、欺、く、白、撞、賊、擅、幼、左、名、と、虚、名、と、愛、て、高、禄

とけんと討收化の皮とありいせよけりふ糸の筒井の露は明山
郷助とも入るも志まし武士よりしと幼な妻と射術の真眼
ふよろく柴炭并て拾んぬ所く方くと何れも成るものと後
あふよ後居のようすとひくしまりしほど人達よて幾
も玉玉と怒まるるぬに丹下も尋るき備へま殿の幼な妻と
同家中とりひの真眼もありとの位もまの面体の様とあら
んやるるりとのあまきく諸候方より島屋よまましよと
推量り何と勝りてりせし後今又面目以身も好しとるま
好ぐる武士の相見え小ふらばは義と化云の化を用糸も
又縁の檀幼丸造の在りぬ俱々よの乳に及ぶるまがら

御方とありやとさんと鐵面皮うら一言ふくらの御助も
河はさし少時言もあうりしづかかどの魂と見えりるとうらひ
山田頼まよとの肉との紐ややせと誘引せぬ柴炭をゆへん
余は顧るも余の志まるとも御助は四匹と見えし
声は潜り糸檀幼な妻と射術のそと眼ありとつひいけ
めもるるも偽りありまの虚名もるるもけんぐおふしめ
美へ竹の助小島家の露は槽谷傳次とや志まるとまの御助
虚名とありと丹下と争らんとしの志ま小島どのの筒井家に
年暮のそと眼ありとめくしと月日とこそすぬはげ頂ありぬ
やとよ本越の足廊小通するも毎夜のそと中及びとる

今更に此の時を以ては、
 待伏して、頂秀と赤松の
 我この役と初めんとす
 儀の幼れたる、又あり
 至まらう、ねらん、と
 一、交わらん、とも、
 あつぬ、難を、と、
 筒井、頂秀、が、
 赤松、の、
 行も、
 高福、と、

この、
 は、
 極と、
 樂と、
 侍弁、
 ありし、
 丹下、
 遠路、
 幼を、
 ある、

是よりさへうづ。我々名は猪隈丹下と申し、
 まー下されぬ後忠勅とお励ま一たすの役目そ尾よく仕
 めせしむらん。人のあつらひ今公端正とて、
 く述べられぬ助も大いよ教を順まう送らとる。カ一
 接と指し、そを至る北島殿より持せ紙ま一指料
 少く教交戰場と程より通具する。所教との演やぐ進上
 仕る。又袖下とまの至人も満まうとてお後せ。丹下
 三友と一つと死つ命は代々兼任仕る所談の場もの
 此辞退下とば。約束相違な所とて、
 互に改とるを因後時と程。おも海文小及びし。

御助も丹下方一宿ま。聖朝密は西人あつと
 上世と出て、南都猿沢の池の辺より旅者よとをけ
 知よ返留して。つたあが廓かうひの容子を窺ぐうらに。
 御助ハ縁斗首尾せし。其後山田順春方へ通ト
 け。向井は考あむびやうよ。かういふ。つーう。おも
 言ふ。翌年三月はあつれども。一取も岡が初階が
 もとよ。折はうまう捨ぐとさうひ。去年のまふ
 今よいたるままで。二年は及び。一取も。ら。通ひまれが
 本石といつ。一息の情。あつらひ。事ふか。こつて。花
 序ハ。あ。む。び。は。と。び。あ。や。こ。ま。き。ん。と。と。れ。も。ま。

生約三輪川淨路と進りなるを取らぬけ春霖ふり
 とくまを付まき緒の指殺し驕のあ後た右より
 とい。暴風烈雨と凌ぎうね。灯籠をぞ消人ともと
 火と消さどとて通以いそぐ向ううそ人の大候
 雨刀後下は袂風雨と厭わず出まらぬ。是ともより
 猪隈丹下うら。女と暖どく糸物と物うら。い通うる
 小濤う江と足ふけ。橋まが頭面のとより。蹴浴せらる。
 付後ぶ者ども。おめくをばし。うらまをど。怒と一舟よ
 赤鷺とて。い付まのまをど。狼藉ふ。万と。そのく。あつて
 子らざる。小丹下。驕の捧。笥と。掘んで。さーも。効さず。

狼藉といふ己等うら。お里の粗業よ。吃烟を。蹴上
 の泥みる。糸が。放よ。かけの。おねら。ぼ。還る。度。事と。うら
 何とぞ。即今。醉。成。さ。ま。し。て。是。人。ど。む。刀。物。を。扱。う
 疾く。糸。お。の。ま。中。照。原。一。流。き。よ。と。突。う。ら。の。紫。い。が
 究。悪。う。ら。習。い。ご。う。小。平。ま。の。若。お。あ。げ。ま。は。順。意。が
 眠。道。よ。松。倉。伊。織。と。い。ひ。て。劍。術。伝。人。は。詔。ま。忠。律。を。三
 の。若。者。あ。り。と。ご。う。順。意。頼。り。小。松。里。へ。通。ひ。の。う。ら。う。ら。ま。を
 深。え。と。ま。ま。う。ら。の。金。言。身。よ。送。ら。ひ。目。通。と。返。ら。ま。道。は
 う。う。う。け。た。げ。と。い。ふ。も。若。者。う。ら。小。松。う。ら。う。自。然。松。里。の
 路。は。よ。め。て。も。ま。の。要。起。う。ら。も。あ。ら。ん。と。行。時。と。も

於里へ強きうへつれんえはくは復送しける。うまはかたは
 しいりぐし。けうくは今も自しきき。地は下さておられせ
 近き。這強物とんるうりも。備へ一丈ゆごさんまこと
 宙と花で蒼踏し。わけつるといしく。丹下が頭より
 準及のくくは斬付まびご。も大後之癩漢面口は血
 煙とち泥滓の中は倒まき。頭香は最まき。うり。もあ
 出たまひ。悪汽等らつ。付まび。斬棄人と息とつめて
 おいせ。小仔織が術とよ。曲者と赤丸。危急を救
 ひ。一服称員し。うい。汝が忠節。或どる。は後。う。扱の
 明ど。う。う。一列も速くゆぐ。と。曲者と屍は止り

さうせ。替るるまき。い。倭人ども。ハ。中略。棄よ。あ。遠。さ
 ま。い。も。も。氷。さ。く。ま。君。の。み。う。と。契。し。道。と。と。ち。ち。う
 由。味。せ。り。松。念。伊。織。へ。筒。井。の。味。お。ま。で。君。と。ち。後。は
 奉。て。う。ま。や。伊。身。よ。恙。う。備。又。是。列。の。根。籍。老。の。死
 骸。と。路。中。は。斬。拵。是。明。日。備。人。の。目。よ。う。う。て。不。し
 せ。バ。順。考。る。の。死。街。が。い。ひ。も。思。び。ぐ。く。た。後。の。法。言。も
 今。し。く。系。族。の。沙。法。は。及。び。大。う。う。と。も。う。う。る。ん。を。よ
 角。取。明。ど。う。う。ら。ふ。死。骸。と。か。く。す。う。を。お。要。う。れ。も
 以。その。所。へ。い。か。し。丹。下。が。死。骸。は。探。り。あ。る。を
 後。日。は。陰。謀。の。種。も。お。ら。ん。と。も。は。摺。合。う。る。刀。を

扱どもりその迎する茂林の裏より鹿を埋めて
 ちりらひの口のつらるるお給らうるなれた山田に
 の指料つらひといはるる兼之の推量より遠く
 伯父君の文よりして物と定む一お給と押せんと
 隠謀思はるべしと密にけ指料と主君の内意に
 備へようんとかいひしと侍志は血で血成あらし
 の丈より白地はもいひ出難うれどとと意をせし
 山田はかまの悪んを説く一ゆやうお斗ひはの
 校え葉る道程うる何とぞ復役よ事な海す良
 業あゝぬしとくはんと備し右義の行と事なた

